

【電話会議質疑録】平成 29 年 12 月期 第一四半期決算について

<日時>5 月 11 日 17:00-18:00

<登壇者>取締役経営管理部長 征矢、経営管理部IR室長

1. 国内酒類事業について

Q.6 月施行の「酒類の公正な取引の基準」への対応について、競合他社が既に自主ガイドラインの改定を行っているが、サッポロ社の状況を教えてほしい。販促費が削減された場合、ブランド等への再投資を行うのか？

A.他社についてはコメントする立場にない。弊社は、自主ガイドラインの改定について、3月から本格的に実施している。6月の新規制に対しても適切に対応していくため、今後販促費は減少すると見込むものの、計画には織り込んでいない。ブランド投資については、露出を高め、ブランドを強化するための施策と支出の方向性を定めており、削減分を再投資する考えはない。

Q.第一四半期の設備投資の内訳について、那須工場のワンウェイ瓶対応工事を行ったとのことだが、今後小ロット工場をどのように活用していくのか？

A.近年の生産拠点集約の流れの中で、容器の製造ラインの集約も行ってきた。小ロット工場である那須工場で、通常規模の工場では生産しない容器の商品を製造できるよう設備投資を行った。単にクラフトビールを製造するというだけでなく、差別化した商品を柔軟にご提案することによって、ご愛飲層の拡大を狙っていく。

2.食品・飲料事業について

Q.第一四半期の業績について、国内の食品・飲料は売上が増加し、品種構成も改善したとのことだが、詳細を教えてください。

A.第一四半期はレモン飲料の売上数量が前年同期比で 116%、国産素材の茶系飲料が 119%と好調に推移した。また、昨年価格改定を行ったレモン食品、スープについても、値上げの影響なく、それぞれ売上数量が伸長したため、利益改善に寄与した。

3.外食事業について

Q.外食事業は年間で 3 億円の増益計画だが、第一四半期は前年同期比で1億円悪化した。人件費が想定外に高騰しているのか？

A.人件費の高騰については年間計画に織り込んでいるものの、想定以上に厳しい状況ではある。ただし、水道光熱費等のコスト削減でカバーできる範囲であり、固定費のコントロールについては心配していない。昨年オープンしたGINZA PLACE 店・新橋店や、2/28 改装完了後の銀座7丁目店が第二四半期以降収益貢献する予定である。

以上